第２回新生公立鳥取環境大学運営協議会　議事概要

日　時　　平成２４年１月３１日（火）１４：１５～１５：００
場　所　　鳥取県庁本庁舎３階　第４応接室
出席者　　○鳥取県：平井知事、横濵教育長、高橋企画部長
　　○鳥取市：竹内市長、中川教育長、松下企画推進部長
　　○鳥取環境大学：八村理事長、古澤学長、谷口常務理事

○平井知事あいさつ

・本日、ここに公立大学として新たに発足する鳥取環境大学について、中期的な目標を設定する協議会を開催させていただいた。
・皆様の大変な御尽力のお陰もあり、鳥取環境大学の志願者が急増している。
・八村理事長や古澤学長を始め大学の関係者の方々が、あちこちにＰＲに出かけられたことや、今回のこの改革の成果が、受験生や学校関係者の間で大きく評価されたことが原因だろうと思う。
・既に２，２００人を超える志願者となっており、うれしい誤算であったと思う。
・ただ、今年は大学入試の試験も関係があり、前期でも後期でもない国公立大学の範疇で試験ができる唯一の大学であるというプレミアムが付いている。
・したがって、本当の勝負は次年度以降ということになろうかと思うので、受験生や地域、また国全体の関係者の方々の期待を裏切らないように、鳥取環境大学の再スタートを切らなければいけない。
・そういう意味で、中期的な目標の設定を意欲的に、大胆に、繊細な配慮でやっていくことが重要である。
・是非とも本日、皆様方から御意見を賜り、これからの大学の羅針盤が誕生することを願ってやまない。
・中期目標は、近々開催される鳥取市議会、鳥取県議会においても重大な関心事として議論されるかと思う。是非とも皆様の御意見を賜りたくお願いしたい次第である。
・くれぐれも鳥取環境大学の発展が、今回の再生を契機に果たされることを願い、私の開会のあいさつとさせていただく。

○竹内市長あいさつ

・本日は、こうして県、市、或いは大学が集って今回中期目標を議論するということであるが、中期目標は大学にとって６年間の大学運営の目標となる大事な指標であり、これまでの検討の中で大体まとまってきて、本日最終的に確定しようということであると思う。
・大学に関して言えば、知事の話にもあったように、志願者数は２，２６６名と、非常に喜ばしい数字になっている。
・この中でできるだけ多くの入学者を確保して、大学運営の明るい前進の弾みとすべき

と思うが、やはり２年目以降について、中期目標の計画期間の６年間の中で、今から十分に考えていかなくてはいけないと思う。
・就職のことについても、今回の入学生が卒業するのは４年後になるわけであるが、今いる在学生の就職についてもしっかりと頑張り、いい結果を出していくことが、２年目、３年目の志願者にも影響するのではないかと思う。
・今の段階では、特に経営学部の内容が十分に具体的に知られていないということがある。先生の顔も見えていないこともある。
・したがって、今からでもそのようなことを考えていくべきと思うが、この中期目標を実施する中で、新生公立鳥取環境大学の中身を県内に浸透させていく努力、或いは県外も含めて情報発信していく。こういったことが強力に求められるのではないかと思う。
・これまでの取組の成果の上に立って、次の一歩。この春に向けてというよりは、来年の春、更にその後に向けた取組を今から巡らし、手を打っていく必要があるというのが、私としての課題認識である。
・関係者の皆様にもこれまでにも増して御尽力、御活躍を期待しているので、どうかよろしくお願いしたい。

●事務局
・それでは引き続き、協議事項に入らせていただく。
・まず、公立大学法人鳥取環境大学の中期目標と新生公立鳥取環境大学運営協議会規程の整備について、一括して協議会事務局の中山事務局長が御説明する。

●中山事務局長
資料１から２まで説明（略）

●事務局
・事務局より中期目標案等について説明させていただいたが、御意見、御質問をお願いしたい。

○中川市教育長
・一番気になるのが、教育は人なりと言われるくらいであるので、先生方の資質である。
・教員の評価ということが項目として挙げられ、教員の評価制度の充実という格好で記述されているが、具体的な教員の評価についてお聞きしたい。
・次も任用するとか、次は難しいぞというような評価の手順とか、或いは、どこまでの範囲の声を評価に入れるのか。

○古澤学長
・教員評価は今後の大学にとって大事なことと思っており、実は、昨年の春から教員評価制度を導入している。

・各先生方に、教育、研究、地域貢献、大学経営の貢献等について春先に計画を立ててもらっている。その内容については、学科長が内容を見て、いろいろサジェスチョンしてもらっている。
・そして、６か月後に目標に対してどれだけ進んでいるのかチェックしていただき、３月には、学科長が最終的に計画の達成度、それに対する意見を言うシステムを作っている。この３月にそれをやるつもりである。
・毎年計画の達成目標に達してなかった場合は、学科長から注意を繰り返して行い、どうしてもうまく達成できない場合、また、注意をしても治らない場合には、５年間の任期の判定に影響させたい。
・基本的には、各先生がそれぞれの１年間の行動を立てて計画が実行できているのかを評価することになっている。

○中川市教育長
・教員の第三者評価はどうなっているか。

○古澤学長
・学部長の評価をオープンにしていきたいと思っている。
・今の段階では、第三者としてどういう組織が評価をするのかは決めていない。
・評価委員会を含めて、外の方の意見を聞くということはやっていきたいと思っているが、今やろうとはしていない。

○中川市教育長
・県民、市民の声が反映できるようなシステムがあるといいかなと思っている。

○古澤学長
・その辺りは大変難しいと思う。中身のこともあり、教育ということもあるので、外から評価していただく場合には、教員評価制度がうまく動いているのかということを評価していただきたい。
・直接中身の評価ということは難しいかなと思うが、検討の余地はあると思う。

○横濱県教育長
・１ページ目であるが、基本的な目標の文章が長い。全体が長く、句点がない。非常に盛りだくさんの記述なので、どこかで区切るなどの検討をお願いしたい。
・最初の方は「人間の育成」、後半の方は「人材の育成を目指す」となっているが、２ページ以降はすべて「人材の育成」となっている。
・「人材の育成」に「目指す」という表現が入っているのはここだけだと思う。
・育成するという目標と、目指すということは違うと思う。意図的にここの表現を変えているが、使い分けをしているのか。

●中山局長

・特に使い分けは明確にしていない。目標であるので、育成するという形が適当だと思う。修正させていただく。

〇竹内市長

・横濵教育長が言われるように、目指すべき目標であるので、文章中は「育成を目指す」ではなく、「育成する」が一番収まりがいいと思う。そのようなことを目標に掲げたということで。同感であるので一言言わせていただいた。

〇平井知事

・質問的だが、ＴＯＥＩＣとＥＣＯ検定の目標を入れておられるというは、これはいいと思うが、これは、受検させる何か仕組みを作るのか。そうであれば、大分特色にもなると思う。
・その辺は、運営費の交付金の中で、多少面倒を見ていくこともあってもいいと思う。
・そうすると、このＥＣＯ検定の受検者が、半数受検が目標と書いてある。
・これは本来、全員受けさせるのであればいいと思うし、そうでなくて、学生に受けさせるとなると、学生の過半数が受検するかどうかというのは、これは費用負担の問題もあるので、学生に義務付けを負わせるような感じにも見える。どのような考えでやっていくのか。
・あともう一つ。これは今後のこともあるので、学長にも聞いていただければと思うが、英語村などをせっかく作るのであれば活用したいということが教育現場の気持ちとしてあり、可能であれば、その辺も、これからの予算編成の中で組んでいきたいということも算段している。
・ここに開かれた大学として高校との交流行事などが書いてあるが、英語村のように、地域の教育のバックアップとしてこの大学を活用するというスタンスで臨んでいただきたいと思う。
・それから、今回２，２６６人志願者があったということだが、この辺は、今後の経営にどのような影響があるのか。
・スタートラインとして何かバッファーと言うか、溜代（ためしろ）と言うか、そのようなものができたのかどうか。その辺をお伺いしたい。

●中山局長

・ＴＯＥＩＣとＥＣＯ検定の分については、資格取得教育の充実なりで、ダブルスクール化構想のようなものを大学にお願いすることにしており、その中でＴＯＥＩＣ、或いは英語力の充実のようなことを設けている。
・ＴＯＥＩＣについては、現在受検生もあまり多くない状況であるので、やはり英語教育の中で受検を勧奨いただくとか。義務付けまでは少し難しいかもしれないが、受検者の拡大をお願いしたいと思っている。
・特にＴＯＥＩＣのスコアについては、学長などにお聞きしたところで、例えば３００

点以上全員などの層を厚くする対策と、できる人間を作る対策、どちらを目指したいかということでは、学長からは、６００点以上がある人間を、少なくてもいいから１学年の１割程度は作りたいという目標をお伺いした。

・したがって、できるだけ全員を目指す、底上げ行う部分と併せて、よりよくできる人間を作るという形での英語教育をお願いしたいと思っている。

・それとＥＣＯ検定は、全員が受検するとなると、知事も言われたように、受検料とか、そういったものをどうするかというようなことも頭をよぎっており、今のところは全学年の過半数であるので、環境学部が全員とプラスアルファぐらいの目標にしている。

・その意味で、目標で掲げる部分、学生での全員受検ということで、そういったような経費的な面も含めて、全学年の全員の受検という形で格上げさせていただいてもかまわないかと思っている。

・それから、英語村の部分については、御指摘のように、地域教育のバックアップ的なもの、特に英語村の部分については、記述等が若干一文、一語程度になっているので、その辺りを、少し追加させていただきたいと思っている。

・それと経営試算であるが、今回の志願者の２，２００人等については、今回の試算の中には反映していない。

・このため、例えば、旧大学からの引き継ぎ資産で１２億９，３００万円を予定しているが、この辺りに、いわゆる入学金等、或いは受験料等の増大がおそらく見込まれるであろうということもある。

・また、入学定員について、これ定員ぎりぎりの２７６人で試算をしているので、仮に受験生等が多くなって、その部分よりも多めの入学者等があれば、授業料も上乗せになる。

・そのため、現在受験生の増加、或いは入学者の増加という部分での、試算よりも収入が上向きにプラスされるという形のバッファーはある。

・ただ、その数が見込めない関係で、現在この経営試算の中では見込まない状況にしているので、確定次第、またこの部分については、修正等をさせていただきたいと思っている。

○古澤学長

・ＴＯＥＩＣの場合は、ビジネス英語という科目でＴＯＥＩＣをやるようになっており、クラスもあるので、そのクラスの中で勉強していただくことになっている。

・それからＥＣＯ検定については、ＥＣＯ検定用の本というのは、結構高いものとなっているが、このＥＣＯ検定を受ける前には、先生方に特別に１週間近く講義をしていただいたりして、合格率をしっかり上げていこうと思っている。

・それから、英語村については、高等学校をずっと訪問してきた中で、そのような話をすると、高等学校はこの頃大変しっかりと英語をやっておられる。それで、そのような英語村ができるのであれば是非とも利用したいということで、こちらとしても、オープンにして、どうぞ来て下さいと言っている。

・特に夏休みなどは学生も少ないので、一般の方達に対しても、そのようなチャンスも

必要かなと思うので、どんどんオープンにしていきたいと思っている。

○竹内市長

・マスコミへの掲載数というのが平成２２年度で４３件で、それ以上での推移を目指すという数値目標がある。

・先ほどから少し触れているが、環境大学がいかに情報発信をするかということに非常に関心があって、特に新しい学部。もちろんそれだけではないが、環境学部にしても、広く地域、或いは全国に向けての情報発信量は、どんどん増やしていくべきと思っている。

・このようなことは、マスコミへの掲載数といった形だけではなくて、例えば、国際会議とかシンポジウム、或いは公開講座の開催数など、いろんな他の指標などからも出ているようには思う。

・そうとは思うが、ここで言っているマスコミへの掲載数なるものは、まずは、２２年度の４３件の内訳はどのようなものであって、どのようなものをイメージしているのかなと。質問と同時に、もっと適切な指標が無いだろうかと思ったりしているが、いかがか。

●中山局長

・４３件と言うのは、新聞での掲載数である。

○竹内市長

・新聞への掲載数というのは、新聞のニュース記事に載ったと。

●中山局長

・そういうことである。

○竹内市長

・単に記事に出ればいいということでもない。

・ある程度どのような内容の記事が紹介されたかと。例えば、大学のいろいろな研究成果や技術が出てきた、或いは特定の先生の活動が非常に顕著であって注目をされているというような、何か大学の評価につながるようなことが掲載されたということであればいいと思う。

・そのような意味で、無限定にマスコミの記事になったのを出したということはいかがなものかという感じもしないでもない。

・少しＰＲというか、大学の顔や姿が伝わるということを主眼に置いてはどうか。

●中山局長

・件数だけに縛らずに、ここは書き方を工夫させていただく。

〇横濱県教育長

・目標をホームページ上で公開、公表されるということであるが、ホームページそのものの造りをレベルアップしていくというような、発信力を含めての対策、或いはそうした面での発信の強化というか、この辺りはいかがか。

●中山局長

・今公立化に合わせて、大学側にホームページのリニューアルをお願いしているところであり、体制的にどういった専属の体制を作るのかということころまでは行っていないが、環境大学で出されているホームページは、今回がらっと変えていただくような工夫をしていただくこととしている。

・そういった意味で、記述的な部分になるが、公開の他に、きちっとした体制を整えるであるとか、その部分の書き込みはさせていただきたい。

〇横濱県教育長

・ホームページも大事であるので、また戦略性を持って発信できるような体制を作っていただきたい。

〇竹内市長

・アクセス数の増加とか。毎年増やしていくと。

●中山局長

・その辺りは中期計画で書いていただくか。

〇松下市企画推進部長

・その中期計画でのお願いであるが、学年が全学年が埋まったら、学生が街に溢れるような、とにかく元気のある、活気のあるような街になってくると思う。

・今までしゃんしゃん祭とか、砂丘一斉清掃とか、学生の皆さんに参加していただいているが、やはり地域貢献

・地域の活力を担っていただくために、大学側からのバックアップ体制なども、中期計画の中で掲げていただいたらありがたいと思う。

●中山局長

・中期計画の話が出たので申し上げると、この中期目標というのは、いわゆる到達点だけを示しているので、どうやって到達するかとか、目標を達成するためにどのような行動をとるかということは、はっきり書き込めない部分がある。

・この辺りは、これを受けて、具体的に何年度までにこういったことをやって、こうするのだとか、このような具体的なものは大学の方に御努力いただくことも出てくると思っている。

○古澤学長

・これから各項目について、中期目標を達成するための措置というのを大学が書くが、これが中期計画になる。

○八村理事長

・１つ、ＣＯ$_2$の削減量のことで、学生数が今の倍くらいに増えるので、５％を減らすということは、ものすごく厳しいことにならないか。

○古澤学長

・最後に少し書いてあるように、学生が一番多かった平成１７年度のＣＯ$_2$排出量を基本にして、そこから５％の削減目標を立てており、まだ減らす部分はあるかと思う。

○平井知事

・施設のつくり方もあると思う。
・１つのモデルケースとして大学でＣＯ$_2$削減するということではないか。
・県庁でも、断熱効果のある壁にしてエネルギー使用量の削減を図っている。

●事務局

・その他、特に意見も無いようであれば、いただいた御意見を的確に反映させ、中期目標の原案を調整して、２月の県議会、市議会の方へ提案する準備をさせていただきたい。
・それでは、以上を持って会議を終了したい。

以　　上